



狼少年の警告

(4月のごあいさつ)

平成22年4月15日(木)

4月になって暑くなったかと思うと、また急に寒い日がやって来て、今年は何だか変な感じがします。

最近、島崎藤村の「夜明け前」を読んでいる。黒船来航の前後の日本の激変期に、江戸でも長崎でもない情報不足の木曾路で本陣を勤める主人公が、夜明け前の暗闇の中で時代の変化を手さぐりしているのは何故か現在と似ている。

過渡期の変化は、今も身近に迫っているようにも思える。

平成22年度の歳入予算における税率の比率は40.5%と凄まじい限りである。

税率比率が50%を割ったのは、戦後が開始した昭和21年度を措いて外にはない。その昭和21年度の前はというと太平洋戦争時代である。

それでは平成22年度の前は太平洋戦争に比すべき動乱の時代であったのか。100年に一度というのならそうかもしれない。

物価は、昭和21年度の後5年間で約20倍にまで高騰している。

このような類似の激震は今後起きる可能性はあるのか。

そのような可能性の一つとして、**長期金利の上昇**ということが言われている。今まで長期金利の上昇は何度か話題になって久しいが、的中したことはなく、警告を発した発言者は「狼少年」とすら呼ばれている。

しかし、**税率が激減する**一方で財政改革に実効性はなく、国の財政悪化はとどまるところを知らず長期金利が上昇しても不思議はない。国家債務862兆円は国民の金融資産の純額へとますます近付いている。これまでのように日本国債のほとんどが国内で消化される保証はないと思うべきである。現在、我が国の長期金利は約1.4%である。しかし先進諸国の長期金利は日本をはるかに超え3.3%~4.3%が普通である。

そんなに遠くない将来、狼少年の言う通りになるかもしれない。

時代の激変は過ぎてしまわなければ解らない。現在の混乱が収まった後には経済の風景も大きく変わっている筈である。

そして、**本当の問題**はこの混乱が終った後にある。太平洋戦争後の日本は混乱期を経て20年余の後に世界第二位の経済大国とまでなった。

平成の混乱期を経た現代が、世界に誇れる日本となれるか否かは誰にも解らない。